令和8年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善案）　国語科

小29　練馬区立光が丘四季の香小学校

学年	課題分析	授業改善策
1	①集中して話を聞けない児童が多い。ほかのことに気が散る。周りを見て話をやめて聞く態勢になれない児童が多い。 ②自分の話を聞いてほしいという思いが強い。友達の話を受けて対話をする経験が少ない。 ③文章を読む際に、書かれている言葉や文を手掛かりに、内容の大体を捉えることが難しい児童がいる。	①朝読書や授業内で読み聞かせを取り入れ、静かに話を聞く経験を積む。 ②スモールステップでペアでの対話を取り入れる。話型を取り入れるなどして、対話に慣れる。興味のある内容を対話するなど、対話に対して抵抗感をもたせないようにする。 ③挿絵と文章を対応させたり、大切な言葉に線を引いたりする活動を取り入れ、文章中の言葉を根拠に内容を捉える経験を積ませる。
2	①自分の考えや経験したことを文に表すことが苦手な児童が多い。 ②相手を意識して話したり、最後まで静かに聞いたりすることができない児童が多い。 ③文章の中の大切な言葉や文に着目して、内容を正確に読み取ることが苦手な児童がいる。	①モデル文を示したり、順序を意識させて書かせたりする指導を繰り返し、取り入れる。 ②授業時に話型とよい聞き方の例を確かめさせ、意識して発表したり、聞いたりできるようにする。 ③「いつ・どこで・だれが・何をした」などの観点を示し、大切な言葉や文に線を引きながら読む活動を繰り返し取り入れる。
3	①授業の中で、自分の考えや思いを進んで表現したり、相手に聞こえる声で伝えたりすることができない児童がいる。 ②自分の考えをもてるが、その考えを文章として適切に表現できない児童がいる。 ③段落相互の関係を意識して、文章の中心となる内容を捉えることに課題がある。	①授業における発表時に、対話時間を設け、必要に応じて話型を提示し、自分の考えや思いを表現しやすくなるような手立てを講じる。 ②読み聞かせや言葉遊びなどを通して日常的に言葉に親しませる。また、文章例を示し、語彙力を高めたり表現力を養ったりしながら、書く経験を積ませるようにする。 ③各段落の大切な言葉や文を見付け、段落ごとの内容を短くまとめる活動を取り入れ、文章全体の構成を捉えられるようにする。
4	①物語の叙述から読み取れなかったり、叙述を根拠に説明できなかったりする。 ②自分の考えを相手に伝わるように言えなかったり、友達の話を聞けなかったりする。 ③自分の考えとその理由や事例との関係を明確にして、まとまりのある文章を書くことに課題がある。	①物語を扱う際に、文章から根拠を見付けて、簡単な言葉で説明できる機会を設ける。問い返して、叙述に戻って考えられるように習慣付ける。 ②初めに書いたものを読み合う活動に慣れさせる。徐々に自分の考えを話す機会を増やす。教科を問わず、ファシリテーターを置いた話し合い活動を常時活動として取り入れ、聞く話すの経験を積み上げる。 ③「考え―理由―具体例」などの文章構成を示し、書く前に構成メモを作成してから文章を書く活動を継続的に取り入れる。
5	①文章を構成すること、書くこと自体に苦手意識をもつ児童が多い。 ②話し手の意図を捉えながら聞き、それを基に話し合いを深めることに課題がある。 ③文章の要旨を捉えたり、文章中の叙述を根拠にして自分の考えをまとめたりすることに課題がある。	①文章構成をメモしたり、友達との交流を通して校正したりする活動を通して、文章構成力を育む。 ②聞くことに重点を置いた話し合いのスキルを学べるようにして、話し合い活動に取り組めるようにする。 ③文章の中心となる語や文に着目して要旨をまとめ、根拠となる叙述を引用しながら自分の考えを書く活動を取り入れる。

6	学力調査より ①「書くこと」について正答率が低い。特に記述式においては無解答率も高く、文章を論理的に構成して書く記述力と意欲に課題がある。 ②「読むこと」の正答率は、全国・都の平均よりもかなり低い。読書への関心が低い児童が多いことと、文章を自分の経験と結び付けて理解を深めることに課題がある。 ③複数の文章や資料から必要な情報を取り出し、共通点や相違点、書き手の考えを比較して読むことに課題がある。	①朝学習や授業内での5～10分間を活用し、「結論・理由・事例」の構成で3文程度の短い文章を書く「ミニ作文」を日常化する。また、宿題や他教科の振り返りにおいて「資料の○○から」のように、根拠となる語句やデータを引用して説明する記述課題を日常的に課す。 ②モジュールや家庭学習において、読書を促進し、読書の習慣化を図る。また、強みである「対話力」を活用し、話し合いの中で、文章の読み取りを深める活動を多く実施する。 ③複数の文章や資料を比較し、「共通点・相違点・根拠」を表や図等で整理した上で、自分の考えをまとめる活動を継続的に取り入れる。